

名産大せとまちおこし地域活性化プロジェクト（名古屋産業大学）

活 動 実 績 調 書

(1) 活動名	名産大せとまちおこし地域活性化プロジェクト
(2) 活動の目的・成果（※何を目指し、何が成果として得られたかについて記載）	
【成果・結果】 ・メンバーとしては、計画段階からフィールドワークを繰り返すことで課題発見力や企画力が高められ、また実際に商店街の方々とお話をしながら対話力や私たちの企画を説明する中でプレゼン力などを向上させることができました。 ・地域とのつながりとしては、末広商店街の方々に企画を説明する中で沢山の応援や様々な意見などをいただき、地域を盛り上げる輪に入ることが出来た。	
(3) 活動の実施内容（※活動の実施方法、時期、場所、回数、市民等への周知方法、参加人員等を含め、その内容を具体的に記載）	
《実施内容》 ・【学生限定】セトリップinバレンタイン 日時場所：2月22日 11時～15時 実施場所：瀬戸蔵多目的室 参加人数：0人 実施内容：尾張瀬戸駅周辺を舞台にしたフォトコンテスト 瀬戸の魅力を探るグループワーク 魅力を発見するフィールドワーク 《周知方法》 チラシを作成しSNSを使った告知、またメンバー個人がDMにて声掛けを行いました。 《実施に伴う調査》 5月に商店街の店舗の方を招いたワークショップの実施 4月、11月、12月に尾張瀬戸駅周辺のフィールドワーク	
(4) 活動実施上の工夫（※活動の趣旨・目的達成のため、特に創意工夫した点について記載）	
・企画を構想する段階から対象が学生ということで、私たちが楽しめる企画ということを意識しながら企画を構想していきました。 ・末広商店街の方から大きく人を動かすイベントにしてみてもというご意見をいただき、多くの人や店舗を巻き込む形で参加者が回遊するようなコンテンツにしました。 ・メンバーが様々な能力を高めることができるよう、インプットの時間を多くとり、メンバーに対するワークショップやフィールドワークを実施しました。	
(5) 活動実施上の反省点（※具体的な反省点等について記載）	
【反省点】 ・参加者がいなかったということで、広報が足りていなかったため、もっと時間やコストをかけて広報をすることで参加者を確保していきたい。 ・参加者が来店することでしか店舗を巻き込めなかったが、店舗側からのアプローチをしていくことでさらなる巻き込みを増やしていきたい。	